

## ニセコ会議プログラム

### 1日目

- 13:00 開会式  
 13:30 基調講演「分権型エネルギー自治」による持続可能な地域づくり  
 ～地域住民による再生可能エネルギー事業がダイナミズムを創発する～  
 ■講師／長野県飯田市長 牧野 光朗  
 14:45 パネルディスカッション(ニセコ会議の論点提起)  
 「住民力による環境活動の実践～行政をうまく使う環境のまちづくり」  
 ■コーディネーター／前消費者庁長官、元千葉県我孫子市長 福嶋 浩彦  
 ■パネリスト／三重県鈴鹿市長 末松 則子 健康・環境デザイン研究所長 中村 恵子  
 NPO法人北海道グリーンファンド理事長 鈴木 亨 エコネットワーク代表代行 小川 浩一郎  
 16:30 終了

### 2日目

- 9:00～16:30 分科会  
 10の異なる分科会で、それぞれ事例発表と「住民力」についての議論を行いました。  
 テーマ:「公共部門の環境配慮」「エネルギー」「交通都市基盤」「水環境」「生物多様性」  
 「廃棄物・資源循環」「地域資源活用型まちづくり」「環境行政」「環境学習・ESD」「地域協働」  
 18:00～20:00 交流会

### 3日目

- 9:30 環境自治体会議ニセコ会議成果報告及び成果報告に基づくパネルディスカッション  
 ■コーディネーター／環境自治体会議事務局長 中口 毅博  
 ■パネリスト／愛媛県内子町長 稲本 隆壽  
 立教大学教授、「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム代表理事 阿部 治  
 法政大学教授、わかまの政策自慢審査委員長 田中 充  
 摂南大学准教授、環境自治体会議LAS-E判定委員 山本 芳華  
 11:30 ニセコ会議宣言採択  
 11:50 次期開催地あいさつ 奈良県生駒市  
 12:00 閉会

## ニセコ会議宣言

今回、私たちは「住民力による地域再生、そして未来再考～リゾート地・ニセコから伝え継ぐもの～」をテーマに、世界中の人々を魅了してやまない自然環境を誇るここニセコ町で、第22回環境自治体会議に集いました。

過去21回の環境自治体会議で積み重ねられた知識や経験に加え、ニセコ会議3日間の議論では、全国各地の住民力を活かした取り組みの現状と解決法や今後の方向について学びあい、問題意識を共有することができました。

また、地域に根ざし積み上げられた住民による主体的な実践活動は、継続性の大切さや新たな取り組みに挑戦する勇気を与えてくれました。

ニセコ町自治基本条例は「まちづくりは住民による自治が基本」と謳っています。ここに集う私たちは、住民ひとりひとりの生きる力こそが「住民力」という認識のもと、互いの地域の知恵を結集し、相互扶助と信頼関係のもと、共通の目標達成に向け、未知なる未来に先導的な役割を果たすため、以下のことを宣言します。

#### 1.【夢と希望と主体性を持つ】

私たち住民は、人口減少や長寿化をチャンスと捉え、わがまちのすばらしさや地域資源を認識し、「我がまちはこうありたい」という将来像を主体的に考え、大胆に、明るく、楽しく、未来志向で地域環境の創造に取り組みます。

#### 2.【人と経済の好循環を生み出す】

私たち企業は、地域の構成員として、人、くらし、資源の3つを結びつけ、環境保全やエネルギー自立によって生まれる価値を、子育て支援や高齢者福祉などの持続可能な社会づくりに活かすように努めます。

#### 3.【学び挑戦する人を支える】

私たち行政は、持続可能な地域を作るため、自ら考え未来に向かって挑戦できる人を育て、その活動を支えます。

#### 4.【信頼と相互扶助】

私たち住民、企業、行政は、互いを信頼し思いやり、連帯して環境保全や持続可能な地域づくりに取り組みます。

平成26年5月24日

第22回環境自治体会議ニセコ会議参加者一同

ニセコ会議のテーマは「住民力による地域創造、そして未来再考」。  
 このテーマに沿い、全体会や各分科会で、「住民力とは何か?」「住民力が持続可能な地域づくりの実現にどのような役割を果たしているか、果たすべきか?」「人口減少社会、少子高齢化社会の中でどのように住民力を高めていくか?」について議論がなされました。

各分科会では住民力を活かしたニセコ町内外の様々な取り組みが紹介されました。3日目の全体会では、持続可能な地域づくりには住民力だけではなく、ひとりの人間の力を地域の人々や行政と連携し、地域全体の力としていくことの重要さも指摘されました。



全体会



分科会



交流会



閉会式

### エキノコックス ～「生物多様性/地域協働」の分科会でリスクマネジメントとして議論～



エキノコックスはキツネの小腸に存在する寄生虫です。戦前に北海道に持ち込まれ、現在は北海道全域に拡大していると推測されています。本来はキツネとねずみを行き来する寄生虫ですが、誤って人間の体内に入ると高い確率で死に至ると言われています。ニセコ町を含む羊蹄山麓の8町村では、市民ボランティアが中心となり、行政と一緒にエキノコックスの駆除に取り組んでいます。

★ボランティアの参加希望は各町村の担当課窓口へ

### フットパス ～「地域資源活用型まちづくり」の分科会で散策～



フットパスはイギリス発祥の「(歩くことを楽しむための)歩行専用の道」で、ニセコ町には2コース設置されています。コースの運営は現在「フットパスファンクラブ」という民間の愛好者が主体的に取り組み、コース整備やコースの案内を実施しています。今後はさらに幾つかのコースを整備、認定し、周辺の市町村にもルートを延ばしていくことを目標としています。

★ニセコフットパスファンクラブ(二世古楽座)090-8903-5705 工藤

### イトウ(オビラメ)保護の活動 ～「生物多様性/環境学習・ESD/地域協働」の分科会で稚魚を放流～



尻別川は絶滅危惧種イトウ(サケ科)の生息南限ですが、近年の自然破壊などの影響で繁殖環境が急速に失われ、個体群は絶滅寸前の状態でした。そこで地元住民や釣り人が中心となり、個体群の復元を目指して「オビラメの会」を設立しました。「オビラメの会」では、尻別産イトウ親魚を飼育し、人工授精によって得たイトウ稚魚を再び川に戻すことで自然繁殖復活の取り組みを流域自治体や関係各機関と協働で進めています。

★尻別川の未来を考えるオビラメの会 TEL/FAX 0136-44-2472